

# 福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会  
〒136 東京都江東区夢の島3-2  
都立・第五福竜丸展示館内  
電話 (521) 8494

今年、財団法人・第五福竜丸平和協会の設立から十七年、第五福竜丸展示館の開館から十四年になりました。本日の会は、協会と展示館の新設を記念するため、毎年開催されている行事です。

展示館はご承知の通り、夢の島公園にあります。創立の当時は、公園とは名のみで、路もなく、雨でも降ったら、歩くにも困難な状態でした。展示館の開館から十四年たった今では、多くの施設が完成し、全く見手がえるような、立派な公園となりました。

そのために来観者も増え、館の保持に当たっているわずか三人の人たちも、その対応に苦慮している状態となって来ました。

## 設立記念祝賀会にあたって

第五福竜丸平和協会会長 三宅泰雄

来観者も、東京付近の人だけではなく、遠くの小・中学校からも団体で見学されるようになり、その対応だけでも、たいへんむづかしい状況となっています。展示館は開設以来、今日までに百二十万人の来観者があり、年ごとに来観される方々の数が増えつつあります。

開設後、十四年もたちましたので、各所に故障を生じ、また来観者数の激増のために、館も狭くなり、来観者の対応に苦慮する状態になってきました。

この展示館は、東京都の施設の一つではありますが、創立以来、運営は第五福竜丸平和協会にまかされています。館員の俸給も、不

十分ながら、協会から支出することになっていきます。東京都からは館の運営費を支給されていますが、それだけでは、全く不十分な有様です。皆様方から頂いている賛助会費も、館員の俸給をはじめ、福竜丸ニュースの発行、その他の庶務に用いられています。しかし、全体としては、全く不十分であり、目下賛助会員の増員をはかっている次第です。

いまは個人、団体あわせて二八五人(年間二〇〇万円)を、三二〇人(一九〇万円)くらいにしたいと思っています。どうか、これらのことをご承知頂き、この上でも賛助会員の勧誘や、寄付金の増加につき、ご配慮頂きたくお願いいたします。



## 各地から修学旅行 毎年訪れる中学校も

風薫る五月、展示館が最も忙しく、船が最も輝く月。

今年も全国各地から八十校余の修学旅行の中学生が展示館を訪れました。新潟、福井、愛知、奈良などいままでもあまり来館のなかった学校も訪れ、和歌山県をはじめ十数県、二万余名。事前の学習や感想文集の作成など、より印象深く心に残る見学をすすめようとの努力がそれぞれにじんんでいます。

京都の桂川中学校は、「ピキニ―忘れ得ぬ記憶」(NHK)のビデオを見、感想文をまとめ、記念碑前の平和集会で、生徒代表が作文を朗読、折鶴を捧げました。

奈良県の王子南中学校も、一人一言の「久保山さんへ」の文集を作り、花束とともに記念碑に「献納」しました。

和歌山県白浜町の富田中学校は、昨年来館した卒業生が見学後作った「文集」、正義を宿せと織り込んだ福竜丸の刺繍を前に、説明を聞き、次から次へと質問の矢を浴びせ「自分の見学記」へ印象を記録しました。同じ和歌山県新宮市の明洋中学校は、三月一日以来校内で絵本「わすれないうで」第五福竜丸ものがたり」の原画展を行い、船を作った人、守った人への思いをひろげ、「念願のほんものに出会った」と目を輝かせました。

宮城県柴田郡の富岡中学校の十五名は、今年もみんながシャベル



記念碑前にすずらんを植える。宮城県富岡中学校の生徒のみなさん。(5月16日)

## 私たちの「平和宣言」

「私たちは知らなかった。私たちは知らされなかった。私たちの父や母がまだ幼かった頃に第五福竜丸の悲劇があったことを。今私たちは知らずにはいられない。私たちは忘れてはならない。核の問題を解決できるのは、ほかならぬ私たち自身でもあることを。」

五月十二日、修学旅行で来館した和歌山県日高郡の南部中学校三年生・百三十四名は、船を前に「平和宣言」。

みんなでも考え、書道の得意な女生徒が何回も練習して書いた立派な額入りの「宣言」を読み上げ、折鶴とともに、船を支えているコクリートの支柱の前に飾りまし

やじょうろを持ち、すずらの苗を記念碑前に植え、久保山さんのことばを読み上げました。碑の周りには昨年、一昨年と先輩たちが植えたすずらんが小さな花をつけていました。「来年もこのすずらんの花ひらくころ新しい生徒がいります」と引率の先生のお話でした。

三人の修学旅行

五月十七日、福岡県立盲学校から高等部の生徒三名、先生三名が修学旅行で来館。説明に「うん、うん」とうなづきながら、大石又七さん手づくりの模型船に触れ、

全身で第五福竜丸を体感しました。後日、「試験を前に一生けんめい書いた」感想文が寄せられました(五面に掲載)。

神津島から小学校も

神奈川・千葉・埼玉の高校生の来館もめだつ五月ですが、座間高校二年生約五百人が五、六人の班行動で一日中自由見学。日本女子大学付属高校四百人、遠く東京都下神津島から小学校六年生が見学するなど、第五福竜丸は休むひまなく訴え続けました。

広島へ平和行進出発

五月十二日午後、原水爆禁止国民平和行進(同実行委員会主催)が、展示館前で集会を開き、広島へ向かいました。日本被団協の小西悟事務局次長が被爆者を代表してあいさつ、「被爆者援護法の制定を」「核兵器の廃絶を」の声で夢の島いっぱいに響きました。また午前中には、日青協、生協など市民五団体による「90市民平和行進」の出発集会も開かれました。

十一日には、日本山妙法寺の平和祈念行脚が展示館前で出発式。久保山愛吉記念碑に深々と合掌し、うちわ太鼓をうちならし出発しました。

平和随想 (41)

三宅 泰雄



力を原子力発電に依存し、国民一人あたりでいえば、二二八〇メガワットの電力を使い、一人あたりには世界最大の電力消費国といわれています。スウェーデンは前述のように、最近、近い将来、原子力発電をやめたいという国会決議をしていますが、果して実行できるかどうか多くの人は、その決議を疑問視しているようです。

ちなみに、日本はどうかといえば総電力の二六・二％を原子力発電に依存し、今後その割合は徐々に増えるだろうと予想されています。ソ連もチェルノブイリでの大事故で、多少とも原子力発電にたいし、消極的のように見受けられますが、大國だけあって、やはり徐々に原子力発電を増やし、全発電量の一〇％をこえているようです。

以上は主として各国の総電力に対する原子力発電の割合でした。しかし原子力発電量を個別に見ますと、最大はアメリカであることは言うまでもありません。古い統計も入っていますが、四、五年前の状況では、アメリカの原子力発電容量は約九万キロワットで、

全発電量の約一九％となっています。原子力発電量の少ないのはインドやパキスタンです。インドでは人口が約八億ありますから、全人口に原子力発電を供給することは至難のわざです。結果として一、二万キロワット程度の電力を原子力(六基)でまかなっているようですが、国民一人当たりになれば、微々たるものです。パキスタン(一基)でも人口が一億以上もあり、ごく僅かな原子力発電量を、国民一人あたりには過ぎません。この両国は原子力兵器で対立し、おそらく、原子力発電も、そのためではないかなどと、疑われているのも、いたし方のない状況といえるかもしれません。

以上は原子力発電の量に関することでしたが、原子力発電の基数を各国の間で比べてみますと、一九八七年の段階で、総数は四二五基、そのうち最も多いのはアメリカの一〇二基でした。これに続くのはソ連の五三基、フランスの四九基となっています。

日本とイギリスは、それぞれ三六基と三八基で基数はほぼ同じですが、電力量からいえば、日本の

方がイギリスの約三倍となっていて、基数の比較だけでは、電力量は分からないことを示しています。電力の発生源は、どの国でも火力が主体となっていることは、共通しています。日本の場合を例にとってみると、火力がほぼ六三％、水力が一三％程度の割合となっています。火力の主体は、いうまでもなく石炭系、石油系の燃料ですが、これらの燃料の燃焼が、大気中の二酸化炭素(炭酸ガス)の増加の原因とされ、現在、大きい国際問題の一つになっています。

これに対し、原子力発電は、二酸化炭素の発生源とはなりません。しかし、まだ、安全性に問題があり、すでにアメリカのスリーマイルアイランドや、ソ連のチェルノブイリの発電所で、大事故を起こしたことは、周知の通りです。それに度々、言及しているように、原子兵器と原子力発電との結び付きを、全く断たないかぎり、また、放射性廃棄物の安全処理を確立しないかぎり、世界中の人々を安心させ得ないのが、最大の欠点といえるでしょう。

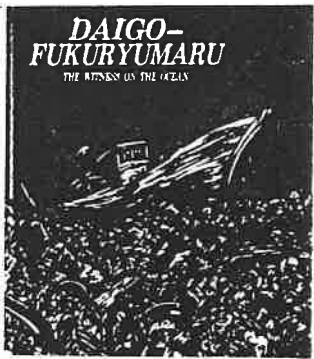
胸中の第五福竜丸

絵本「わすれないで」の発刊まで

金 森 三千雄

表紙が破損している古いノートを見ると、あるページに写真二葉が貼ってある。しゃがんで船を撮影しているわたしを、誰かが撮ったものである。もう一葉は、船を背後に置いてわたしが、伸びをしているものだ。

一九七二年六月十日(土曜日)の日記だ。そこには、次のような一文が書いてある。



「東京湾のかたすみに見たすかぎりのゴミの山が…」絵本はここからはじまる。写真は『英語版』の表紙(一九九〇年三月発行)

その日、わたしと友人T氏とは、夢の島にある船を撮影に行った。熱くて風がなく、まるでわたしたちは、真夏の午後後に放り出され、水分の不足した生物のようにぐちゃぐちゃしていた。

また、そのノートの右ページには、地図がある。明治通りを進み、日曹橋を渡り夢の島大橋が描かれている。先が夢の島だ。その手前の左に第五福竜丸と記されている。書いた地図の上には、タツミ団地、ゴミトラ街道という文字が殴り書きがしてある。さらに「ピキニ被爆の証人第五福竜丸を保存しよう」とあり、当時の看板の全文が青いボールペンで転記されていた。

つまり、わたしが第五福竜丸に出会った最初の時のことだ。今から十八年前である。なぜ船を撮影に行ったのか不明だ。記憶としては、ある新聞の第五福竜丸の記事を見て悲しく思ったように思う。単なる感情の変化

であつたらう。そして、その船を写真におさめておくと、ただ思っていたわけではない。しかし、この一ソウの船のことを、いつかわたしは、知りたくなっていた。

捨てられたポロポロの船が、なぜわたしを魅きつけたのかかわらない。数々の変化に耐えた船。その数奇の運命をここで、あえて記さなくてもよいだろう。

だが、この船を、子どもの読みもの絵本の形態で、いつかは出版しようと思いついて、十数年を待った。絵本の編集技術を磨くのに、やはり、そのくらの年月を要する。この船の生い立ちを、半生を人間の側からではなく、あくまでも船の生きてきた姿として絵本化したかったのは、事実だ。

ところで、悲しみの多いこの船は、いったい誰が、いつどこで、この世に生み出したのか。この船が、人間的な感情を持っていたら、かつてどの瞬間に喜びを味わったのか。わたしは、ますます深く広く知りたくなったのである。これが絵本化するスタートであった。画家は誰に登場していただこうか。どのような画法で描いたら、

日本の木造船の製造晩期を、また時代と共に生きた船の半生を表現できるのか、時を待った。幼い子どもたちに理解してもらえないのは、どのような画面構成が……と練りあげた。

画家の赤坂三好氏は、快く版画の手法で描いてくれた。和歌山県の古座に住む、船大工の南藤藤夫さんにもお会いし、取材をかさねた。展示館の関係者にも、絵本の構成に参加していただいた。また仲間の女性編集者が、根気よく絵本づくりをしてくれた。

この船を知ることにより、わたしは、数多くの人との出会いがあった。そして船は、一冊の絵本になり、英語版も発刊された。次の時代を育てていく、多くの子どもに、この船のことを、知ってもらえれば幸いだ。

第五福竜丸が生まれたのは、一九四七年。わたしもおなじ年。なにかの縁だと思っている。一ソウの船により、わたしの自分史なるものの原点が、見つかったような気がする。ほんとうに感謝している今である。

(金の星社・編集長)



福岡県立盲学校のみなさん。3人の修学旅行(5月17日)

### 第五福竜丸を見学して

福岡県立福岡盲学校  
高等部普通科三年 久保弘樹

入館した時、何かを感じました。目の前の大きくて、古びた船体、入り口付近に掲げられている説明文、皆、私に何かを訴えかけているように思えました。

「核兵器は恐ろしい」、これは、多くの人が認識していることでしょうし、私もそう思っています。しかし、広島、長崎について

は、よく知っているものの、その他のことについて、じかに実感できる機会はありませんでした。恐ろしいとは分かっていますが、何がどのくらい恐ろしいのかは、本当には理解できていなかったのかも知れません。

数々の展示品を見ていくうちに、私の中にあった恐ろしさは、今なお続く地下核実験への怒りの気持ちへと変わっていきました。世界中で危機が叫ばれているのにもかかわらず、核兵器を保持し続けていることに対する疑問の気持ちがいかに強くなりました。

東西の冷戦構造が崩れ、軍縮へと動き出した今、核兵器の分野においてもっと削減していかねばならないと思います。なぜなら

福岡盲学校大津陽一教諭 昨年の夏私が訪れた時に感じた強い印象を、生徒は生徒なりのみずみずしい感性で感じとり、平和への思

(4めんよりつづく) ホワイト・ローズの活動がなかったら私は皆さんと面と向ってお話出来なかったろうと語った。ホワイト・ローズは医学生が反体制の組織を作った活動で一時目覚ましい活動をしたが後全員処刑されたそうだ。

ドイツの医師会は今でもナチ時代の医師達の行為を弁護しているという。

彼は最後に、誰もが核体制の倒壊に貢献することが出来る。それには坐して待たないということだ。と言い切った講演を終った。

翌日、ケルンの墓地へお参りした。ユダヤ人、ソ連人、強制労働で連れて来られた外国人、安楽死

ら、今、核兵器を使用すれば、全人類の死につながり、誰一人として生き残れないのは明白なのですから。

もはや、核兵器廃絶への道は、机上の空論や他人任せになってはならないと思います。個々人が、

いを新たにしようです。私自身も新たな思いで第五福竜丸の印象を持ち帰ることができました。

止神奈川県医師の会代表)

今、何をすべきかを真剣に考え、人類の生存のために、実行していかねばなりません。

今回の見学は、単に核兵器の恐ろしさや、被害者の苦しみだけではなく、核兵器廃絶のためには、私達自身が立ち上がらなければならぬということを教えてくれました。私も今後、自分のできることを考え、行動していきたいと思

います。遠い洋上での尊い犠牲を無駄にしないために。

### 「国家」と医師

シュヴァイツァー、ニコライ、アインシュタイン……

田村清

一九八六年五月二十九日に西ドイツ・ケルン市で開かれたI P P N W (核戦争防止国際医師会議)の第六回世界大会は、その年の二月二八日に死亡したオロフ・パルメの追憶の演説で始まった。

翌日の西ドイツ・マインツ大学小児科のハルト・ハナウスケーアベル医師による

「国家主義下の医学」という講演は今でも忘れられないで、日本の医学事情と比較して折に触れて思い出す。

ハナウスケーアベルは、冒頭にアルバート・シュヴァイツァーのことを話した。

シュヴァイツァーは核兵器の開発と配備に対する断固たる批判者の一人で、「人類への訴え」、「平和と核戦争か」と題したラジオオースロの放送は、ほとんど忘れられているが、今日改めてI P P N W が強調しているが、既に一九五〇年代にこのような議論を提供して

いた。すなわち熱核兵器の爆発のもとでの災害計画や民間防衛が幻想であること、偶発核戦争や管制・指揮・通信の失敗の可能性があること、放射線降下物が生物に及ぼす悲惨な影響などである。最近でもシュヴァイツァーは今世紀西ドイツで群を抜いて尊敬されている人物である。ドイツ人はシュヴァイツァーをドイツ人だと思っていたがっている。しかし多くの論文をドイツ語で書いていた彼が、一九五二年ノーベル平和賞の受賞演説は、ドイツ語は不適切と考え、フランス語で行っている。他にドイツ語で受賞演説をためらったドイツの受賞者は一人もいない。

一九三七年一月ナチスドイツ政府はノーベル賞受賞は犯罪であるとした。スルフォンアミドの発見者ドマクとステロイドホルモンの解明者ブーテナントは受賞を拒否した。

一九三五年の平和賞受賞者カ

ル・フォン・オシーツキは投獄され肺結核で獄死した。

一九三三年に発足したナチ新政権をドイツ医師会は新時代到来として歓迎した。

市民はユダヤ人医師にかかるところを禁止された。医師会雑誌は表紙をハーケンクロイツで飾った。待望の国家再興の始まりとしたのだ。

ドイツ医師達の間でいっそう支配的となって行った、すさまじいまでの民族感情を検討しなければならぬ。第一次大戦の初頭この民族感情が引金となって驚くべき文書がつくられた。九三人の宣言文である。中立宣言をしているベルギーに侵入したドイツ帝国陸軍はルーヴァンの町をおそい町の名士たちを射殺し町を破壊した。これに対する国際的非難に対し発表されたのがこの宣言文である。中立を犯したり、ベルギー市民の生命や財産に指を触れていない、ドイツ軍国主義がなければドイツの文化は滅んでしまう。われわれの名と名誉においてこのことを確認する。この宣言文にウィルヘルム二世時代のドイツの知的エリート達九三人が名を連ねたのだ。署名者の中には、レントゲン、ペーリ

ング、ワッサーマン、ナイセル、エーリッヒ、エミールフィッシャー等々がいた。たった二人の指導的科学家がこれに抗議した。一人はアインシュタイン。一人は皇帝一族の侍医でベルリン大学教授ニコライ。アインシュタインはスイス国籍なので当局は干渉しなかったがニコライはドイツ市民であった。ニコライは一兵卒として徴集されたが宣誓を拒否し脱走した。アインシュタインは彼を数週間かくまひ、スカジナピヤへ逃亡させた。

一九一九年ニコライはノーベル平和賞を受け翌年ベルリン大学に戻ったが学生達は彼に講義をさせなかったし、教授達は大学の名誉を汚したとして彼を停職処分にした。彼は国を離れた。学生の指導者コンケは後に医師会長になり強制収容所での医学を用いての殺人を指揮した。

医学学校では人種生物学と人種衛生学が教えられ非アリア人の劣性遺伝が追求され、強制収容所では満州の七三一部隊で行なわれたと同じような人体実験が繰り返された。非アリア人は病原体であるからとして次々と抹殺された。

彼はザ・(5めん下段につづく)